# 高山崎郊中 地域選過72Ver。2 手引書

2010年度版

富山市脳卒中地域連携パス研究会

# 目 次

1	基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
2	使用にあたっての注意点・・・・・・・	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
3	連携パスの記載にあたっての注意点など	•	•	•			•	•	•	•	•	•	•			•	3
4	運用方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5
5	様 式 (1)富山脳卒中地域連携パスFAX送信票		•	•	•		•	•		•						•	7
	(2) 富山脳卒中地域連携パスFAX返信票		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	8
	(3) 富山脳卒中地域連携パス (患者用)	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	9
	(4) 富山脳卒中地域連携パス(医療者用)		•											1	1	• ]	12

# 基本的な考え方

- (1) 富山脳卒中地域連携パスVer.2(以下、「連携パス」という) は、患者さんの疾病の 回復過程に応じて急性期・回復期・生活期における医療サービスと情報が切れ目無く 進んでいくためのツールとして活用されることを目的に作成しました。
- (2) 各期のスタッフが統一した尺度を用いて治療・ケアを行うことで、富山圏域における医療の質の向上と効率化を図り、脳卒中患者を支えることを目的としています。
- (3) 急性期から回復期病棟(病院)または生活期施設・病院に転院する症例を対象とします。急性期から直接自宅に戻る軽症例は除外することとします。重度な意識障害症例も除外しますが、重度患者であってもリハビリを必要とする症例は対象とします。
- (4) modified Rankin Scale (mRS) を基に作成した「生活レベル分類」で、患者さんの 各時期での達成目標を設定することにしました。合併症やその他で機能の変化があれば目標を変更することができます。
- (5) 国際生活機能分類 (ICF) に沿った事項を「ステップ」として呈示し、達成日を記録することとしました。これにより、患者さんの生活復帰にむけた各機能の変化が担当者に理解できます。
- (6) 紹介状、経過報告書、退院時サマリー等は今までどおり連携先へ送ることを前提に、この連携パスは作られています。従って、それらに書かれる内容と出来るだけ重複しないように、本パスの内容を検討しました。また、パスに記載できない重要な情報は紹介状等に記載していただくことにしました。

## 2 使用にあたっての注意点

富山脳卒中地域連携パスVer.2は①「富山脳卒中地域連携パスFAX送信票」、②「富山脳卒中地域連携パスFAX返信票」、③「富山脳卒中地域連携パス(患者用)」、④「富山脳卒中地域連携パス(医療者用)」の4部から構成されています。

どこをどの職種が記載するかは、各医療機関・施設であらかじめ取り決めておいてください。

#### (1) 富山脳卒中地域連携パスFAX送信票・返信票

FAX送信票は「紹介患者基本情報」の提供書でもありますので、パスの一部として保存してください。また、急性期から回復期、回復期から次の連携先施設へは、「紹介患者基本情報」欄も他の書類等と一緒に送ってください。

#### (2) 富山脳卒中地域連携パス (患者用)

- (ア)連携パス(患者用)は診療報酬上の「地域連携診療計画書」となります。従って、これを使って急性期病院入院1週間以内に患者さん・家族に今後の診療計画を示してください。その時、患者さんまたは家族のサインをもらってください。
- (イ) 病名、手術の有無、入院時症状などの欄にチェックを入れてください。また連携先病院が既に決定しているのであれば記入をしてください。予定入院期間を 記入してください。
- (ウ) 病状やパスに書かれた内容などを説明した後、コピーを患者さん・家族に手渡 して、原本はカルテと一緒に保存してください。退院(転院)時にもう一度記 載があります。
- (エ) 転院時に「月日」、「退院時患者状態」、「日常生活機能評価」を記入して、もう 一度コピーを患者さん・家族にお渡しください。カルテにもコピーを残し、原 本を連携先病院に連携パス(医療者用)、紹介状等と一緒に送ってください。
- (オ)回復期では連携パス(患者用)の原本を受け取り、入院予定期間や今後のリハビリなどの予定を説明してください。署名は要りません。患者さんが退院される時、「退院時患者状態」および「日常生活機能評価」の合計点を記入してください。そして、そのコピーを患者さん・家族に渡し、カルテにもコピーを残し原本を次の紹介先の生活期病院・診療所に連携パス(医療者用)、紹介状、サマリーとともにお送りください。
- (カ) 生活期病院・診療所では介護保険等で受けるサービス内容を連携パス(患者用) の所定の部位にわかる範囲でチェックを入れていただき、受診後1カ月に患者 状態の欄にもチェック等を入れてください。
- (キ) それを連携パス (医療者用) とともに受診後1カ月に紹介元病院 (回復期病院 など) にFAXでお送りください。

#### (3) 富山脳卒中地域連携パス (医療者用)

- (ア) 連携パス(医療者用)はオーバービュー式としました。
- (イ)「発症前生活レベル」は、mRSを基にした評価法で判断してください。また、 最終的な目標(アウトカム)を入院1週間前後に目標生活レベルで予想してく ださい。
  - そして、患者さんの転院時、達成できた生活レベルも同様に評価して、記載ください。
- (ウ) 自宅と老人保健施設などを「生活期」にまとめました。パスの終了する時期 (エンドポイント) は急性期・回復期病院から退院して医療機関に受診後1カ月 としてください。最終評価をしていただいた時点でこのパスは終了となります。

(エ) 各病期の担当欄の項目にチェックまたは記入をお願いします。そして、次の紹介先に連携パス(患者用)、紹介状、サマリーとともに送ってください。 生活期では受診後1カ月に評価していただき、連携パス(医療者用)を連携パス(患者用)と一緒に紹介元病院に送ってください。

# 3 連携パスの記載にあたっての注意点など

#### (1) 生活レベル分類

modified Rankin Scale (mRS) を元に分類しました。

О	全く症状なし
Ι	何らかの症状はあるが障害はない:通常の仕事や活動は全て行える
П	軽微な障害:これまでの活動の全てはできないが、身の回りのことは援助なしでできる
Ш	中等度の障害:何らかの援助を要するが、援助なしで歩行ができる
IV	中等度から重度の障害:援助なしでは歩行はできず、身の回りのこともできない
V	重度の障害:寝たきり、失禁、全面的な介護

#### (2) ステップ

- (ア)ステップの欄では達成日を記入してください。リハビリ場面などで出来るようになった日を「達成日」としてください。この日を明確に判定することが困難な場合がありますが、数日の誤差があってもかまいません。訓練の開始日ではありません。経管栄養は開始日を記載してください。但し、「社会的交流」「患者心理」では、日付の記載はいりません。経過中に達成されていれば、チェックをつけてください。
- (イ) どの職種がどこを記載するかは、各医療機関、施設で話し合って決めてください。

#### (3) 項目の説明

	治療法の理解と 同意	治療法などの説明を行い、患者さん本人が理解されているか否か、そして同意が得られたかを判断します。家族の同意が得られていても、本人が意識不明で理解が困難な場合には記載はできません。
健康維持・ 再発予防	治療への自主的な 取り組み	治療者側の主観的な判断で記入してください。達成日を記 入することが困難であれば、チェックのみで良いです。
	内服薬等自己 管理	本人が自分で薬を管理できるようになった日を記載してく ださい
	生活習慣の改善	喫煙、飲酒、運動習慣などでの改善があった日付を記載し てください。

	起き上がり	つかまってでも自分で起き上がりができるようになった状態。
	端座位	ベッドの端で座位が取れる状態。手すりにつかまっても良い。
	車椅子駆動	自力で駆動できる状態。空間無視や認知症などで危険を伴う ために見守りが必要な場合は不可とし、見守りにチェックを つけてください。
70 T. W. L.	起立~立位	自力で立ち上がり、立位保持ができる状態。手すりを使用し ても良い。
移動能力(注*)	移乗	手すりを使用してでも、車椅子への移乗が可能な状態。
	杖歩行	杖や歩行器を使って歩く。 補装具(短下肢装具など)を使用していても良い。
	独歩	屋内歩行可能。但し下肢装具をしていても良い。
	階段昇降	手すりを使用しての階段昇降ができれば可。
	屋外歩行	屋外歩行が可能な状態。補装具(杖、下肢装具など)をしていても良い。
	留置カテーテルやおむつ使用	尿意がなく、留置カテーテルやおむつ使用。
# 30 金 /6	要介助	パンツやズボンの上げ下げや、便器に座る等に介助が必要。
排泄動作	見守り	転倒や失禁の危険性があり、排泄動作に見守りが必要。
	自立	手すりを使用していても、すべて自立。
	経管栄養	経口摂取が困難で経管での栄養摂取をしている状態。開始日 がわかれば記載してください。
摂食・嚥下	経口介助	経口での摂取は可能であるが、介助が必要とする状態。
	見守り	経口摂取が可能であるが、声かけや見守りが必要な状態。
	自立	自力での摂食が可能。
	限られた言葉のみ	全く困難か、あいさつなどの限られた言葉のみ理解可能。
会 新 珊 柳	簡単な内容(要配慮)	簡単な内容の理解が介助や配慮があれば可能。
言語理解	簡単な内容	基本的な要求など簡単な内容の理解が可能。
	理解可能	日常生活で必要な言語の理解可能。
	限られた言葉のみ	全く困難か、あいさつなどの限られた言葉のみ表出可能。
言語表出	簡単な内容(要配慮)	簡単な内容の表出が介助や配慮があれば可能。
百丽衣山	簡単な内容	基本的な要求など簡単な内容の表出が可能。
	表出可能	日常生活で必要な言語の表出可能。
	家族との交流	会話などの交流が家族のみに限られている状態。
	職員との交流	看護師・リハスタッフなどとの交流が可能な状態。
社会的交流	他患者との交流	他の患者との交流が見られる状態。スタッフの励ましや助言 があっても良い。交流にあって自分をコントロールすること ができる。
	社会/地域との 交流	患者本人から他の患者に声掛けなどをして交流の機会を作ったり、病棟内でのゲームなどに積極的に参加する状態。自宅にあってはデイサービスや地域の行事などに参加する状態。
	意識の安定	不穏や夜間せん妄が無い状態。障害について正確には認識さ れていない。
患者心理	混乱期	障害への悲観的な態度から立ち直りつつある状態で、家族や 周囲の人のことも考えられる状態。
本 石 心 生	再適応の努力	機能回復やADLに関しての機能訓練など積極的になっている。 障害を受け入れる準備ができている。
	日常生活への自信	生活自立に向けて、退院後の問題解決に積極的である。在宅 での生活・就労などに自信を持てる状態。障害の受け入れが 出来ている。

注\*:一段目の( )内にはリハビリ場面で達成した日を記入してください。最終とは退院 時の必要な介助量です。あてはまる介助量を「全介助・要介助・見守り」の中からチェック してください。

#### (4) 障害高齢者の日常生活自立度 (寝たきり度)

生活自立	ランク∫	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する 1 交通機関等を利用して外出する 2 隣近所なら外出する
準寝たきり	ランクA	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	ランクB	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが座位を保つ  1 介助なしで車椅子に移乗し、食事・排泄はベッドから離れて行う  2 介助により車椅子に移乗する
	ランクC	一日中ベッド上で過ごし、排泄・食事・着替えにおいて介助を要する 1 自力で寝返りをうつ 2 自力で寝返りもうてない

※判定に当たっては、補装具や自助具等の器具を使用した状態であっても差し支えない

# 4 運用方法

- (1) 用紙は手書き用のみ用意しました。他の施設へ紹介されるときは必ず原本をお送りください。患者さん・家族には連携パス(患者用)のコピーを手渡してください。
- (2) 急性期病院→連携先(回復期)病院

FAXで転院依頼を行う時はFAX送信票にある「紹介患者基本情報」および主治医紹介状を、転院時には連携パス(患者用)、連携パス(医療者用)の原本と入院科以外の受診科の紹介状、看護・リハサマリーなどをお送りください。もし、FAX送信以後に患者さんの症状等に変化があった場合には、その内容を記載した主治医からの紹介状を添えてください。

(3)連携先(回復期)病院→生活期(医療機関・施設) FAX送信票にある「紹介患者基本情報」と連携パス(患者用)、連携パス(医療者用) の原本と主治医および他科の紹介状、看護・リハサマリーなどをお送りください。

#### (4) 生活期(医療機関・施設)

受診後1カ月に連携パス(<u>患者用</u>)、連携パス(<u>医療者用</u>)の所定の欄に記入していただき、<u>連携先病院(回復期病院)にFAXで送り返してください。</u>

(5) その他(回復期から急性期への逆紹介の場合など)

再発や他の合併症の悪化などで紹介元病院などへ逆紹介した場合には、その時点でパスは終了します。その旨を急性期病院へ伝えてください。

		取扱	注意·	紹介先FAX	番号再码	<b>奎認</b>
富山脳卒中地域連携パスVer.2	FAX送信票	送信日	平成	年	月	日

— — <i>;</i> —	1 - 0 - 50 / 2 - 37 3 - 7 1 1 0 1 1					
	宛 先			紹介病院名		
	病院	様			病院	地域連携室
(FAX:		)	電話: FAX:		担当者	

平素は格別のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。脳卒中地域連携クリニカルパス対応の患者様が入院されており 貴院への転院を希望されておられます。ご配慮のほどよろしくお願い申し上げます。

#### 紹介患者基本情報

紹介忠有多	<b>基本情報</b>									
フリガナ		性別	引 男	・女	生年月日	M·T·S	·H 结	F 月	日(	歳)
患者氏名	様	主治医:	名		科	ł				
住所				電話				職業		
入院日	平成 年 月		日	初発·再発	□初発[	]再発	(初回	年	月	日)
病型	□脳梗塞 □脳内出血 □くも膜下	出血		今回発症日	平成	年		月	E	8
部位	□右麻痺 □左麻痺 □両麻痺			手術日	平成	年		月	E	Β
DNIA	□その他(	) [	□無	術式						
認知症	□有 (軽度・ 中等度・ 重度)		□無	発症前 身障手帳	□有(私	重類		級)		□無
発症前 介護保険	□無 □有 ( 要支援 □1 □2	2 要	介護	12	2 🗆 3	]4 □5	)			
既往歴及び 受傷前に 治療中の 疾患	□高血圧(□継続中) □糖尿病(□組 □心筋梗塞/狭心症/心不全(□継続中 □神経因性膀胱(□継続中) □アレルキ □緑内障(□継続中) □高次脳機能	P) □腎 ドー(□継 :障害(□	§不全([ 継続中)  継続中	□整形外) □抑		全(□継統 □継続中)	売中) □ □継続	D他(	内障(□	
感染症既往	□肺炎(□継続中)□尿路感染(□継約		\	•	)	身長		cm 体重		kg
感染症 		)、HCV(		)、MRS		)、多剤耐 			₹膿菌(	)
│ 発症前ADI │				のADL	0点		1点	<u> </u>	2.	点
食事		全介助		静の指示	□なし	□ā	□あり			
排泄	□自立 □見守り □一部介助 □	全介助	どちらか	の手を胸元	□できる		きない		_	
更衣	□自立 □見守り □一部介助 □	全介助	寝	[返り	□できる		かまれり	ばできる	□でき	ない
整容	□自立 □見守り □一部介助 □	全介助	起き	上がり	□できる	7	きない			
入浴	□自立 □見守り □一部介助 □	全介助	座位	立保持	□できる	支□	えがあれ	ばできる	□でき	ない
移動	□自立 □見守り □一部介助 □	全介助	利	多乗	□できる		見守り・介	助必要	□でき	ない
意思疎通	□良好 □やや困難 □困難(失語?	その他)	移重	動方法	□介助不	要□ク	市助必要			
	□経□摂取 □経管栄養(	fr)	口用	空清潔	□できる		きない			
現在の 摂食状態	□胃ろう(造設日 年 月 日	fr)	食	事摂取	□介助な	し ロー	-部介助		□全介	广助
	□TPN □その他(	)	衣服	の着脱	□介助な	し   ロ-	-部介助		□全介	广助
現在の	□常食 □ソフト食 □きざみ □ミ	キサー	他者への	)意思の伝達	□できる		きない。	寺がある	□でき	ない
食種	□ゼリー □とろみ □その他(	)	指示力	が通じる	口はい		いえ			
排泄動作	□自立 □見守り □一部介助 □	全介助	危险	<b>负行動</b>	口ない	□ā	5る			
			日常生活	活機能評価						
│ 使用 排泄用品	□トイレ □ポータブル □尿器					/	19点			
3717—713—4	□留置カテーテル □おむつ 		合	計点	評価日	平	成	年	月	日
	続柄(	)			□自宅			]施設(		)
キーパーソン	,,,,,,,	,		終了後の 希望先	□他病院	(	) [	]その他(		)
	連絡先(	)	此邓	扣主儿	□未定					

吧
域
連
携
パ
ス

		取扱	注意・	紹介先FAX	〈番号再確認
富山脳卒中地域連携パスVer.2	FAX返信票	返信日	平成	年	月

富山	脳卒中地域	或連携パス\	/er.2 F	AX返信	票	返信日	平成	年	月	日
		返信先				返	信元病院名			
		病院	地域連携室 担当者様	担当者				病院	地域連携	<b>美室</b>
FAX				FAX						
患者			様	年齢		歳	性別	男	· 女	
貴院。	よりご依頼のあ	つた上記患者様は								
1	1 月	日(	)、転院予	定としまし <i>†</i>	た。					
		時頃まで	に転院の準備を	として当院に	お越し	ください	, \ <sub>o</sub>			
	2 転院の検討を	をさせていただきが	こく、事前に	診察	· 面詞	炎	をさせてく	ださい。		
	□ 診察は、	月	日 (	)	時	分	頃の予定で	ぎす。		
	=						=			
	□ 面談は、	月	日 (	)	時	分	頃の予定で	ぎす。		
	=									
	当日は	ご家族様・・	ご本人様	が、	紹介状		保険証			
	=			= ===						
							を持つ	ておいで	ください。	
							_,,			
□ :	3 残念かがら	今回はお受けでる	きません. 理由	は以下の通り	<b>りです</b> .					
	(	7 1 10 03 2 17 0 0	- O. C. 700 PER	1000/1 00/2	, , ,				)	
	(								)	
 備考										

患者用)
.2 (是
<b>XVer</b>
引山脳卒中地域連携パプ
地域運
公平中
画工源

説明者名	
Ш	
日	J
卅	□<も膜下出血
沿	目
説明日	三日田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田
	派

患者氏名			<b>一</b>			14 二人も瀬下田目	日田上			
病院名	砂	急性期病院(			)病院	連携先病院(		)病院	自宅・施設(	^
予定期間	全身	全身状態がよければ	(ば1∼(	)週間で転院でき	きます	合併症などがなければ、1~		)ヶ月間で退院できます		
退院基準		病	病状が安定している	ていること		状態が安定し、支援の体制が整つ	支援の体制	が整っていること	井桜のボナ単像と 3人名 2年1年1	サックボナ
月日	\	\	\	\	\	\	\	\	日徳・母先り切り 海豚	ド井・ロン語は
経過	入院日	発症~1週目	1~2週目	2~( )週目	転院前	転院時	1~( )4)	7月 退院前		
治療内容	診断と治療 の決定 手術 □ 有	病状に応じた適 切 な治 療を行 います	適 症状により治療・ 行 離床・リハビリ を進めます	<ul><li>転院の準備をし 」ます</li></ul>	退院先と連絡を とります	脳卒中と合併症 などの基本的な 検査をします	退院の方向性を 決めます。外泊 で自宅での生活 に慣れましょう	tを 退院後の支援 いることを確 いることを確 ご 認しましょう	現在できる身の周り動作を続け、さらにできることを増やしましょう 間じこもりを避け、社会参加を進めましょう 転倒予防と健康生活の維持を図ります	t、さらにできること; iめましょう リます
極型	CT, MRIなど	温者さん	患者さんの状態などにより、CT,MRIなど		の検査を行います	転院時に血液検査や心電図、CT、MRIなどの 基本的な検査が行われます	査や心電図、C 行われます	T、MRIなどの	カかりつけ医などで定期的診察・検査を受けましょ	・検査を受けましょう
凝	常用薬・中止薬 を確認します	·	点滴・内服などが行われます		薬剤師から薬 の説明・指導を 行います	持参薬の確認と内服を 継続します		内服薬や自己注射がご 自分で管理ができるよ うにしましょう		管理できるようにしまいようにしましましょう
# # E	小がにしる多の			ľ.		<del>                                      </del>	NA 4# 333	<b>©</b>	家事や外出をして、生活を豊かにしましょう 施設では生活に密着した日常生活動作を中心に訓練します	ましょう 動作を中心に訓練しま3
女間医・リハビリ	/ 夜のんだ。 の仕方などを説 問します			半行権内歩行裸省 → 1 31常生活動作の訓練も	火・歩行希歩行練留 5 します	→ 医外砂门、陷圾料麻辣酱	(本)	2	余暇活動にも積極的に参加しましよ   時々、装具のチェックもしてもらいま   # +	にひましょう ましょう 、トェー・楽冊な演覧を
			患者さんの状態により、訓練内容が決まります		。また、自宅での訓練方法を学びましょう。	方法を学びましょ	<i>ا</i> ر،		対になるという、中光しない。  ましょう	よって同反み用当名
色	原則、飲食はできません きません	食事が開始されます 経管栄養の場合あります		通常の食事になります しかし、患者さんによっては治療食になります	治療食になります	通常の食事になります 患者さんによっては治療食	<u>ります</u> は治療食になりま	to	自宅では状態により各種介護サービスを利用し よう	ナービスを利用しまし
聯灣	身体拭き(清拭)をします	をします 状態	状態により清拭・洗髪をします	たき	ワーまたは入浴ができます 術患者さんでは抜糸後)	可能であれば歯みがき 入浴などができます	みがき、 ます	――― 外泊をします スタッフによ		€.
排	ベッド上での 排泄になります	状態により尿の管が入 っていることがあります			法を選択します	車椅子・歩行器・杖で 動して排泄を行いま	·杖でトイレまで移 ハます		□通所介護□知知 3 所略 華 7	
患者・家族への説明	検査結果と治療方針の説 明があります		今後の方向性などスタッフと相 談し決定します	世域道 カッフと相 院先や リ、返 ます	地域連携室担当者が転 院先や地域に連携をとり、退院後の調整をします	転倒予防や院内感染予 防などの説明があります 介護教室などに参加し ましょう	 	介護認定申請をします 住宅改修には介護保険を 利用することができます 詳しくは地域連携室担 当者へ		To the second
	[入院時症状]	[退院時患者狀態]平成	\ 大態】平成 年	H H		[退院時患者狀態]平成		年 月 日	[受診1力月患者狀態]平成	年 月 日
1			<ul><li>□独歩</li><li>□位本</li><li>□位本</li><li>□位本</li><li>□位本</li><li>□位本</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□</li><li>□<th>□車椅子移動 □寝たきり</th><th></th><th>移動能力 □独歩 □車椅-</th><th>□独歩 □杖歩行 □車椅子要介助 [</th><th>□車椅子移動 □寝たきり</th><th>                                     </th><th>□車椅子移動 ]寝たきり</th></li></ul>	□車椅子移動 □寝たきり		移動能力 □独歩 □車椅-	□独歩 □杖歩行 □車椅子要介助 [	□車椅子移動 □寝たきり		□車椅子移動 ]寝たきり
人院時症状/退院時状態		新 第 第 第		日常生活	生活機能評価※※	病院名 住 所		日常生活機能評価※※	病院·医院名 住 所	日常生活機能評価※※
	□その他 ( )	話 汜		合計点	/19点	出 犯		合計点 /19点	話 汜	合計点 /19点
メモ										
 	はあくまでも計画	五六九八 黒老け	※ト記の内容は、あくまでも計画であり、患者さんの状態などにより変更がありますので、プア承ください。	11 応目が表ります	アオノをしょ シリ		2日 当 年 主権会	で記価ケークサイング	※※口堂生活機能單価では今早占が年1、程 でまろうとだめい マソーゼン サオ	++11/2

(続柄

署名

Ш

Щ

件

平

治療計画の説明を受けましたので、地域連携診療計画書(患者用及び医療者用)を使っての連携を行うことに同意します。

×

毗

(医療者用)
رAVer.2
山脳卒中地域連携パ
富山脳卒中

斯 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	高本語 一			回復期			年活期(自	牛活期(自实,施設,病院	(3
匙.	(	)病院	( 人院日	平成 年 月	)病院	支援施設·病院名( 帰宅·入所·入院日	院名( 八院日 平成	#	
無財	看護師 OT ST	M S	世 田 田 T M	看護師 ST	M S	半治アイプマネジ	看護	宗	
達成目標	5	>> 00 22 00	Im Hil	一神	>	変更の有無 □有 生活期での変更目標生活	<ul><li>□有 □無</li><li>更目標生活レベル</li></ul>	0	\
	手術日     平成     年     月       結式     (     )       #新日     以時     件     日	ш п			□退院前自宅訪問	□ カンファレンス [5] の開催   自	受診後1ヶ月の経      立度    J-1    B-1	過】 □ J-2 □ A-1 □ B-2 □ C-1	1. Q-2.
人院中の経過 (治療・処置・検査・薬剤)	ナ (世) (上) (世) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日	I ^		(35)%	□退院時カンファレンス	書名·家権へ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	野介護度 要支援 野介護度 要介護	] 	] 4
	□ワーファリン服用 その他 ( )		0億兆0億盟 財	支援   1    2    4    5    5    5    5    5    5	□患者・家族への説明	の病状の説明		- [ 人] ハビリ(□短期間型) 護	間型)
	<ul><li>□手術等に関することを患者・家族に説明</li><li>□転院先へ連絡・調整</li><li>□退院についての患者・家族への説明</li></ul>	: 記知 3	<b>本</b> □	□有 級)	□関係スタッフ間の調整	lii <u>a</u>	□短期/7所療養介護□短   訪問系   □訪問介護   □訪問看護   □訪問	張 孫養介護□ 選 選	□短期入所生活介護 □訪問リハビリ □訪問入浴
	急性期退院時狀態 退院日 3	年 月 日	回復期退院時狀態	f 状態 退院日 年	H H	受診後1ヵ月状態	7月状態 退院日	日年	B B
到達生活レベル	退院時到達生活レベル □0□ □		退院時到達生活レベル	:活レベル □0□ I □ II		受診1力月至	受診1カ月到達生活レベル [		\
転倒歴	転倒歴:□無 □有( 回)		転倒歴:□無	[		転倒歴:□無	□有(	回)	
高次脳機能障害など	認知症:□無 □有 その他(	^	認知症: 二無	[	^	認知症:□無	乗 □有 その他	J	
退院時確認事項など	□高熱(38度)なし □重大な合併症がない	い     全身状態が良い	□重大な合併症がない	がない    家族の理解がある	□支援体制が整っている	再発□無□有	生活場所□自宅□施設	5設□病院□他(	(
日常生活機能評価	0点 1点	2点	0点	1点	2点	00	1点		2点
床上安静の指示			□なし	□あり		□なし	□あり		
手を胸元まで持ち上げられる	_		□できる	□できない		□できる	□できない		
寝返り	□できる □つかまればできる	□できない	□できる	□つかまればできる	□できない	□できる	□つかまればで	まる	□できない
起き上がり	Ш		□できる	□できない		□できる	□できない		
座位保持		□できない	□できる	□支えがあればできる	□できない	□できる	□支えがあればでき	できる	□できない
移乗	Щ	□できない	□できる	□見守り・介助必要	□できない	□できる	□見守り・介助必要	必要	□できない
移動方法	出		□介助不要	□介助を要する		□介助不要	□介助を要する		
口腔清潔	□できる □できない		□☆☆~	□できない		「「できる	□できない		
食事摂取	□小助なし □一部介助	□全介助	□介助なし	□一部介助	□全介助	□介助なし	□一部介助		□全介助
衣服の着脱	□介助なし □一部介助	□全介助	□介助なし	□一部介助	□全介助	□介助なし	□一部介助		□全介助
他者への意思の伝達	□できる □できない時がある	□できない	□できる	□できない時がある	□できない	□できる	□できない時がある	<b>.</b> \$4	□できない
診療上指示が通じる	□はい   □いいえ		いた	□いいえ		いつわ	□いいえ		
危険行動	□ない  □ある		□ない	<b>□</b> ある		□ない	<b>□</b> ある		
日常生活機能評価合計	合計点	山	合計点		币	合計点		TĒ.	
排泄動作	□自立 □見守り □一部介助 □	□全介助	□ 草草□	介助	□全介助	□自立□□	□見守り □一部介助	介助 □全介助	助
使用排泄用品	器	□留置カテーテル □おむつ	□トイレ □ボ	器	]留置カテーテル □おむつ		]ポータブル □尿器	器 □留置カテ	テル □おむつ
現在の拇食状態	及 □経管栄養( fr) (治部) 在 日	□ TPN		<ul><li>☑ 経管栄養( fr) [ (活設日 年 日 F</li></ul>	□TPN fr)		( □経管栄養( ) (活設日 年	fr) TPN	(L)
			□その他(			□その他(	- I		
本人の希望									
家族の希望									
コメン	□連携先病院退院後、当院受診をお願いします □連携先病院退院後はかかりつけ医での治療をお願いします	いします の治療をお願いします							
									裏面もあります

# 患者氏名

富山脳卒中地域連携パスVer.2 (医療者用) 到達ステップ表

	_		1			T						
【生活レベル分類】	患者心理	社会的交流	調表出	言語理解	摂食·嚥下	排泄動作		最終:には退院 時の介助量をチェックください。	移動能力 ( / )内には リハビリ場面での 自立した日を記入	健康維持· 再発予防	ステップ	時期
< = = - 0	□意識の安定	□家族との交流	□限られた言葉のみ( / )	□限られた言葉のみ	□経管栄養開始 / )	□留置カテーテル やおむつ使用		最終: □金介助 □要介助 □見守り	□配さ丘がり ( / ) 最終: □全介助 □要介助 □見守り □端座位	□治療法の理解と同意 ( / )	ステップ।	^
, はあるが障害はな これまでの活動の : 何らかの援助を !度の障害:援助な 寝たきり、失禁、	□混乱期	□職員との交流	□簡単な内容(要配慮)	□簡単な内容(要配慮)	□経口介助 ( / )	□要介助	( / ) 最終: □全介助 □要介助 □見守り	最終: □全介助 □要介助 □見守り □形等	□単何丁點點 ( / ) 最終: □全介助 □要介助 □見守り □記立~立位	□治療への自主的な取り組み( // / )	ステップ॥	倾弃
	□再適応の努力	□他患者との交流	□簡単な内容 / )	□簡単な内容	□見守り ( / )	□見守り		最終: 量終: □全介助 □要介助 □見守り	□ □ □ Φ Φ 17 ( ) 最終: □ 量介助 □ 要介助 □ 見守り □ 即 分 □ □ 見守り	□内服薬等自己管理	ステップⅢ	期
は援助な ともでき	□日常生活への自信	□社会/地域との交流	□表出可能	□理解可能	□自立 / )	□自立 ( / )		最終: □金介助 □要介助 □見守り	□間校升降 ( / ) 最終: □全介助 □要介助 □見守り □屋外歩行	□生活習慣の改善( / )	ステップN	極
してできるない	□意識の安定	□家族との交流	□限られた言葉のみ	□限られた言葉のみ	□総管栄養 開始 / )	□留置カテーテル やおむつ使用		最終: □全介助 □要介助 □見守り	□応さエル・ウ (	□治療法の理解と同意	ステップI	(
	□混乱期	□職員との交流	□簡単な内容(要配慮)	□簡単な内容(要配慮)	□経口介助	□要介助	( / ) 最終: □全介助 □要介助 □見守り	最終: □全介助 □要介助 □見守り □形守り	□単何丁點型 ( / ) 最終: □全介助 □要介助 □見守り □起立~立位	□治療への自主的な取り組み ( / )	ステップ॥	回
	□再適応の努力	□他患者との交流	□簡単な内容 ( / )	□簡単な内容 ( / )	□見守り ( / )	□見守り ( / )		最終: □全介助 □要介助 □見守り	□枚多行 ( ) 最終: □全介助 □要介助 □見守り □到守り	□内服薬等自己管理 (////////////////////////////////////	ステップⅢ	復 期
	□日常生活への自信	□社会/地域との交流	□表出可能 (  /  )	□理解可能	□自立 / )	□自立 / )		最終: □金介助 □要介助 □見守り	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	の改善)	ステップN	强
	□意識の安定 □再適応の努力 [	流流	70 5	□限られた言葉のみ □簡単な内容(要配慮) □簡単な内容 □理解可能 □理解可能	□総合の発表を表する。日本の表別である。日本ののである。日本ののでは、日本ののでは、日本ののでは、日本ののでは、日本ののでは、日本ののでは、日本ののでは、日本ののでは、日本ののでは、日本ののでは、日本ののでは、日本ののでは、日本には、日本のでは、日本のでは、日本には、日本には、日本には、日本には、日本には、日本には、日本には、日本に		□階段昇降□屋外歩行	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	□起き上がり □端座位 □車椅子駆動	□治療法の推解と同息 □治療法の相等とのでは、	受診後1カ月	生活期(医療機関・施設名)
	□混乱期 □日常生活への自信	□職員との交流 □社会/地域との交流	(要配慮)	記慮)		テルやおむつ使用				同息 放取り組み 理	受診後1カ月の到達レベル	機関·施設名)

12

### 富山脳卒中地域連携パスVer.2 手引書(2010年度)

平成22年3月

編集・発行 富山市脳卒中地域連携パス研究会 事 務 局 富山市保健所健康課内 〒939-8588 富山市蜷川459-1 TEL 076-428-1153

